

平成28年度 第1回中小企業振興会議 農業振興検討部会 議事録

日 時	平成28年7月25日（月）午後2時から午後3時30分まで
場 所	クリエイターズプラザ3階 研修室B
出席者	○ 農業振興検討部会委員 石井委員、上田委員、塩路委員、多田委員、田中委員、谷川委員、平田委員、福田委員、山田委員、浅田委員 (欠席：園田委員) ○ 事務局 農政課 土山課長、中洲総括主幹、紀先主任
案 件	1. 検討～援農に関するアンケート調査について 2. その他
議事要旨	<p>【開会】</p> <p>【事務局から】 ・部会委員の紹介、配布資料の確認、ICレコーダー録音の承認</p> <p>【質疑】 (委員) 5月24日に中小企業振興会議部会長会議があり、いずれの部会についても「人づくり」というキーワードがあり、その人づくりに関して部会長間で意見交換をさせていただいた。その中で出てきたのは、各部会で合同で何か人づくりに関わる様な事業が出来ないか、という様な議論もございました。今後、特に人づくりにつきましては、委員皆さんにご議論いただきたいと思います。今日は、いわゆる援農に関わっての議論になるかと思しますので、よろしくをお願いします。 援農に関するアンケート・資料の内容を事務局よりお願いします。</p> <p>【事務局】資料説明 ・農家向け、市民向け2種類のアンケートに取組む ・記載内容の説明 ・アンケート実施進行案、スケジュール案の説明</p> <p>(委員) 本来でしたら、各委員方々の質疑に入っていくところですが、今年度ご就任いただいた委員の方々もおられますので、自己紹介あるいは都市農業に関するご意見をいただければと思いますし、前回ご出席いただけませんでした塩路委員におかれましても、出来れば自己紹介とご意見を賜りたいと思います。その後、アンケートに関わる議論を進めてまいりたいと思っています。</p> <p>(委員) まずこのアンケートを見せて頂いて、実際にこの通りでいけたらいいんですが、あえて逆の懸念材料からいきます。まずは手伝って欲しい作業で、当JAでも農業体験をさせて貰っています。その中で、これを受委託するかしらないかという問題があって、シルバー人材センターにも依頼しているという声を組合員さんから頂く。色々な課題があり、私が言う事ではないかも知れませんが、ある組合員では手伝って欲しい、ある組合員さんでは、ちょっと最後の詰め作業が出来ない等、それはあくまでもシルバー人材センターのことなので問題はないんですが、実はこれを無報酬ですというのがどうなのかというのを検討するのが一点。それと後継者の問題で、都市農業振興基本法の問題なんですけども、(農家向け問11) 市民農園は別なんでしょうか、他に貸し借りでは納税猶予の問題が関わってくるのかなと、設問には将来と書かれているので今の現状ではないんですよと、将来は都市農業振興基本法の進み具合によって納税猶予のことも加味されるんだと、その辺のニュアンス的なことも含めて、農家の方からこのアンケートについて質問があった時に、どう答えるのかと考えたところなんです。それともう一点は有償無償であれ、草刈り位はやるというのは分かるが、耕運から入ってもし機械を使って事故が起こった時に、どういう補償をするのかというのが出てくるんじゃないかと。本当に農業を守っていただきたいというのは農協の立場であり、そこで本当にアンケートを活かす方向にもっていかないと、アンケートはするよそれをどう活かすかは、まだまだ決まらないかわからないが、結論というかどうかという方向に活かすかというのが今後検討していくのが大事ではないかと思っています。私は常務をやっていて、こんなことを言うと何やねんと言われるかも知れないが、これだけは言わせて頂きたいのは、私は農業は小学校六年以降していません。農協でも信用部門におりました。但し去年一年間は役職定年になり、その間農協改革の部門におり、アンケート調査を行いました。行方中で農業がどういう様な実態なのか把握に努めたが中々最後の結論が出ていない。これは政府の方針もあるんでしょうけども、都市農業をいかに維持していくのかが一番の課題かなと思っておりまして、一步一步しかない、アンケートが一步一步の一段階と仰っていただくのは大いに有り難いことですので、その辺、検討していかないといけないと思います。</p> <p>(委員) 日々勉強中でございますが、今グリーン大阪さんが仰った様にこのアンケートについては無償でということなので、中々ボランティアとして、結果はやる前からあれなんです、少ないんじゃないかと思っております。丁度タイミングを同じくして、私共も4000名を対象に大阪中河内管内で農家組合員アンケートをさせて頂く。その内容につきましては、この中で3分の1程は含まれているが、もう一步踏込んだところで先程もありましたが、農協の受委託は毎年数字的には増えております。やはり農協さんにやって欲しい。例えば10a 13000円位とか、有償でさせて頂いている。それでも手が回らない程に増えてきている。特に田植え・稲</p>

刈りについては、この間部会を作り、ある仕事でヒマな時期には手助けが出来る方に部会に入っただき、その方々に稲刈り等をしていただく、そこまでさせてもらわないといけない状態になってきている。そういう面での経済部門での人手不足がウチの内情の話ですけども発生しているのが現状です。また、逆に農地を貸してもいいよというアンケート結果と、農地を借りてでも増やしたい後継者、農地を借りてでも拡大したいという方もおられます。特に柏原の方ですけどもおられます。そういうのも含めて今回アンケートをさせていただくので、今回は片一方の話になるが先程、グリーン大阪さんが仰った様に、税制面、納税猶予では自農で当然栽培しなければならないが、やってもらったらどうなのか。様々な問題があるかと思います。内容につきましては先程事務局の説明にあった無償でという文言を入れるか入れないかという所も議論する必要あるかと思う。よろしくお願ひします。

(委員) 事務局説明の中でアンケートをとれば当然集約をすることとなるが、集約をすれば分析の必要もでてくるが、農政課の方で集約、分析は中々難しいのかなと思っている。この辺農政課がやっていけるのかが1点と、それと分析頂いたものを反映させていかなければならないという事で、スケジュールを示していただいて議論の中で都市型農地を守っていくという、色々な方にお手伝いしながら農地を守っていくという様な形で、取組んでいかなければならないと思っています。

(委員) 農政の援農なんですけども私達 PTA で小中学生のいる保護者・親の立場から言うと、小さい子を連れて若い世代を育てていきたいとなると、私達世代が農作業をして携わるとなると子供と一緒に参加出来る様な環境があれば無償でも経験というか、食育の面も含めて参加しやすいのではないかなと思う。自分自身が家庭菜園で子供に好き嫌いをなくさせたいなというので、プランター菜園を試みたりとかを過去にしてきたことがあるので、そういう保護者の方を育てていく面ではいいのかなと思ひました。

(委員) これからは先程委員の方々からいただいた意見を踏まえた上でも結構ですので、委員それぞれの立場からお話いただければお願ひしたい。

(委員) アンケート実施進行案で、農家向け約1000件とあり、この対象は具体的にどういう方なのか、その辺詳しく説明いただければ。

【事務局】 市内農家約1000件は行政で情報として把握させていただいているのは、今の名称で経営所得安定対策という国の制度があり、そこで水田情報として把握させていただいている農家の方、これが約1000件ありますので、この方々を中心にしながら後は農業委員会さんで登録されている農家情報なども少しスリ合わせをさしてもらいながら1000件を集めていきたいと思っています。

(委員) 経営所得安定対策は毎年 JA を通じて実行組合も集まって申請されてきています。申請書は4項目で米づくりとかあるが、例えば米づくりの申請されている方は何名とか内訳はどうですか。

【事務局】 今、数字は持ち合わせていませんが

(委員) 耕作実態調査の農家向け設問3の農地面積は何アールですかとあるが、出来れば貸付農地、借受け農地、その辺の内容まで突っ込んでアンケートされればいいのではないかなと思うが。それと関連して農地には市街化区域農地と市街化調整区域農地があり、市街化区域農地には生産緑地農地もあります。この辺が農地面積何アールだけでなく、もう少し突っ込んだ内容までアンケートされたらどうか。これも皆さんで議論いただけたらと思う。また先程も触れられたが市街化区域農地の中の生産緑地農地あるいは相続発生後の納税猶予制度を適用されている農家もおられるので、農業委員会でも毎月の総会等での案件にも関係してくるが、相続税納税猶予の適用を受けておられる農家、その辺もこの機会に追加していただけたら、なお内容が詳しく把握できるのではないかなと思います。

(委員) こまかい文言の話ですが、農家向けの問12「他人に貸したくはない」と、「後継者もいないので……貸したくない」はダブっている様なんですが。3項目は「後継者もいるから農業を続けるから貸したくない」のか、その辺がはっきりしないと思う。もう一つは市民対象の方で問9だが、「田植え、収穫」を手伝うのは機械でやるのを連想するのか手作業でやるのか、その辺がイメージできればと思った。

(委員) 種植え・苗植えとあるが、種植えは種蒔きという。草刈りは農家のイメージとしては機械を思うが、ここでは草ひき、鎌で草刈り、草ひきというイメージがあり、その辺が農家に対しては草刈りと書いてしまうと、畑の草ひきは違うのかなというイメージになってしまう。

(委員) 先程、消費者団体協議会の役員50名とあったが、検討して29日にご返事出来るようにしたい。悠友塾の方も同様に会長の方は講師で行っているの、どういう様な形にするかご返事させていただきたいと思ひます。それと、姉が徳島の山の中に居るが、本人は薬局をやっているが、山の中で元気な者が何かをしていると怪しまれるというのでシルバー人材センターに登録して、すごく需要があり農協・農家にミカン・スダチとかが多いが、すごく人気で、ひきてあまたで時給800円程で1000円はシルバー人材センターに最初は納めていたが、だんだん直接交渉になって最近はその1000円も自分が貰える様になってきた。確かに有償うんぬんはあるが検討すべきことではあるが、やはり安定的に契約してちゃんと来てもらおうと思えば、有償にした方がかえってキチンと来てくれるのではないかな。それとお金を貰う以上は仕事もキチンとしないといけないとなる。来る方もやりがいがあるし払う方も大変かもしれないが、その分時間調整とかあると思う。姉夫婦の姿を見ていると有償もいいのかなと若干思ひました。それが一つと、JA大阪中河内、JAグリーン大阪さんも立派なアンケート調査をされようとしている事で、その結果の開示は一般にはされないんですか。

(委員) トータル的なものは広報ではさせてもらったが、JAのアンケートには個人的な項目もあり、それについては個人情報もありますので出しかねるかなとは思ひますが。ただ、仰った様にもの凄く難しい問題があり特に都市農業地域なので資産があり、もっと地方ならスムーズに行く様に思うが、課題があります。ただ、先程PTAの方が仰った様に農協としては地域の方々・子供さん・お年寄りの方々に本当に農業というものを知っていただきたいというのは本当にある。あるんですけどもそれをどう受け入れるかというのが、いい加減に

受けるとなると一番中途半端になってしまうので、体制も含めて検討していかないといけないというのはある。ただアンケートはこれをどう活かすかというのは後の問題なので現状を知るためには必要と思う。

(委員) アンケートがもし開示していただけるのであれば、東大阪市のアンケート調査結果と大きい範囲と東大阪という地域での比較が出来るのかなどうかな、という風には思いました。現状を知るという意味ではアンケートはやはり有効ではないかと思う次第です。

(委員) アンケート本体の経緯ですが (JA 大阪中河内) も5年ぶりに取組むもので当時取組んだ時には1500件に対して行い、広報誌「はぐくみ」にしか載せていないが、アンケート結果を色々な会議で検討してきました7つ程の検討材料がありました。そのうちの6つは克服というか例えば営農施設として米の貯蔵庫を建てたりとかをこの5年間の間にやりました。やはり残っている課題といえば遊休地というか農地の空いている所、特に柏原とか八尾の山際の方がどうしても遊休地になってしまいます。そこに花を植えたりとかやっているんですけども、まだまだ毎年増えてきています。その辺はもっと前向きに積極的に取組んでいるところですが中々難しいところ。それと今言いました施設関係。例えば農作物の販路拡大をしてほしいというアンケート結果が出ていましたので、直売所を2か所から6カ所に増やしたりは農協の中で出来ることでしたので、この5年間で概ね出来ているが、まだまだ今回のアンケートは現状把握をしてこれからのニーズに応えることが大事ですし、それによって農協の方向性を誤らない様に見極めることが出来るのかということで、今回5年振りにさしてもらおうことになります。

(委員) その結果みたいなものは出るんですか。

(委員) 今回取組むのは大阪中央会というのがあり、そこで大阪府農業振興会があり、現在大阪府には14の農協があり、今回は4農協で取組みその4農協全体の結果を分析して返ってくる。ウチは実行組合通じて、4000件程度配らしてもらおう。その結果を中央会が分析して、各JAがどう広報するのか、仕方は未定です。11月位には結果が出るのではと思います。

(委員) 今まで頂いた意見の部分で、まずは有償・無償の文言をどうするかというのが一つあるかと思う。ただアンケートの案としてこういう項目を入れた方がいいのではないかとこの部分と、今後の日程に関する部分があると思うが、その辺、事務局どうでしょうか。それと農地面積の内訳をもう少し聞いたらいいんじゃないかというご意見もありましたが、考えているところございますか。

【事務局】 農家向けアンケートの間3の「農地面積何アール」については、まず書いていただきやすい様にとというのが一番ありまして、今回は援農支援を受ける意思がありますか、というのが主旨になりますので、あえて細かな設問は考えてはいない。それと生産緑地、市街化調整区域、市街化区域の内訳もとりあえず援農についてのニーズ調査という事で考えてはいないところです。

付け加えて説明すると、逆に生産緑地をもっています。納税猶予農地をもっていますという方が、もうすでにどこかに頼んでいるとなると、このアンケート自身がダメなのかとなってしまいますので、そんなことを極力分からない様に一般論として、高齢であり障害をもったり、あとは自分自身は出来るが息子さん娘さんが他都市にいて、家族経営として成り立たないといった部分が多々あり、色々な部分が想定出来ますので、そういうことを客観的にまず、見たいなということを優先したいなと思っています。

(委員) 私も事務局の方から予めご相談いただいて、今回は中小企業振興会議の中で援農ということが非常に有用であろうという観点でまず、東大阪として農家の方、一般市民の方の意識レベルとしてのご意見を頂戴したいという意図が今回のメインになるところかなと思いますので、事務局の答弁にありました様に、まずはこういう形でした方が、むしろ細部まで聞くと答えるのはやめようとなっても困りますし、いいのかなと思っています。あと、農家向けアンケートの間12はまた事務局で検討いただけたらと思っています。あと農業支援に関わって作業の内容で市民の方がどんなイメージとして、農作業にもっておられるのか、重要だと思うので、農家の方が思っておられる草刈り、草ひきのところと、その辺を合わせておかないと後で解釈する時に難しくなるかなと思う。この辺、文言の説明とかは要らないですか、多分、耕運といっても読んで字のごとしだが何するんやろうということもあろうかと思いますが、簡単な農作業の説明とかは……

【事務局】 そうですね、あるとすれば機械を使った経験がありますか、とか

(委員) 多分 (経験は) ないと思う。

【事務局】 一般向けアンケートになると例えば、過去に農業をしたけど今はやめたとか、農家の息子さんにアンケートが届く可能性もあるので、そういうことからすると機械を経験したことないばかりしかいないということにもならないと思うので項目は入れてもいいのかなと思う。あと草刈りとなると確かに機械による草刈りしか発想しないので、草ひきの方がいいのかなと思ったりした。

(委員) 雑草とりとかはどうですか

【事務局】 一緒なんですけど農家用語でいうと草ひきなんですけど、そこは検討します。

(委員) ほか、特にこれからの進行・予定として何か追加点等に関わってごさいませんか、事務局の予定案示されていますが

【事務局】 アンケート集約・分析の方では、今までファームマイレージ運動の取組みに関わって奈良女子大学の先生からアンケート調査の分析とかをやっていただいたことあり、今回も先生に集約・分析の依頼を考えているところです。スケジュール的には9月一杯までに概要の集約を考えているところです。

(委員) 次回、中小企業振興会議はいつ予定ですか

【事務局】 11月前後ということで、はっきりはしていませんが

(委員) それまでに間に合えばということですか

【事務局】 そうですね

(委員) 他にあれば

(委員) アンケートの話ですけど、これは確かにやる方向ですか

【事務局】 はい、修正して発送となります。

(委員) 農家向けの対象者は経営所得安定対策で得た情報をアンケートに使うというのは、大丈夫なんですか。

【事務局】 主にはそうなりますが、ぶっちゃけていますと農業委員会と JA さんが把握している農家情報をもとにさせていただきますというのが大前提です。その情報を改めて頂くとなると手間がかかりますので東大阪市でもっている水田情報のデータ・住所地で送らせていただくということになりますので、ご理解をお願いしたい。

(委員) 市民向けには無償で援農、手助けについての問になっていますね。先程、有償・無償の発言あったが、まずは無償でということですか。

(委員) これは多分、基本的な姿勢として有償なのか無償なのかを入れるか入れないかで、ちょっと議論が要るかなという所ですが、その辺についてはいかがでしょうか。

(委員) 農家向けの問8で、「援農に関わる支援があれば利用を考えますか」という問で2年程前から農協から職員を派遣されるが、農家にとって非常にイヤなんです。農協の職員といっても殆ど農業を知らない。結局この援農と同じなんです。手伝いに行きますよと言っても、何をやるかなんです。こっちで全部作業内容の指示などして半日自分の仕事は殆ど出来なくなってしまう。私が聞いた話ですが、まあ慣れた頃に枝豆の苗を植付ける作業をしたところですが、最初は全然出来なくて慣れた時点で多少は手助けになったみたいですけど、最初のうちはずっと目をつぶらないといけないですし、そういう全く素人の方を使っている経験が何件かあるので受け入れている所は皆そういう思いがあると思う。私は農の匠の方で、毎年就農希望の方に教える依頼が来る。私は受入れていないが、農の匠の所へは100件あって毎年7~8人位は実際就農とかしているみたいなんです。そういうところは一応プロを目指しているのも無料で受入れている。それと違ってこれは助けて貰おうという発想ですから、やはり最初のうちは無償で、慣れてくれば、しょっちゅうその人の助けに来る様になる。そういう関係が出来たら有償も考えていくという方向がいいんだろうなと思います。本当に手助けになれば有償でもいい。でも最初のうちは、この援農したい人とのマッチングだけではなしにコーディネーターも真中に要るでしょうし、最初は大変ですけど無償で聞いていくのが、そこからスタートかなと思う。

(委員) 無償の方が有り難いんですよ。というのは受委託も今年2年目なんです。受委託をもっと営農経済の担当だけでなく、もっと広めていけばという議論はある。お金を頂くとなると、体験であれば中途半端でも許していただける部分があるが、お金を頂くとなると100%完璧にしないとイケないとなるので、今言われている様に無償で市民の方に農業を知ってもらうというのがいいのかも分からない。田舎の様に何十アールあるとかいうものでもない。今仰っていただいた様に農業体験では迷惑をかけてます。体験をしていただくではないとしても、お手伝いを畑や田でしていただくというのが大事なのかも分からない。大きなことはあまり考えなくていいのかも知れない。有償・無償の論点でいくと。

(委員) 今、無償でいいのではないかと、との意見ありましたが、アンケートに関わってどうでしょうか。

【事務局】 ご意見がなければ一言だけ、有償・無償の話が今でているが、我々としたら農家さんの代表の方の意見にもあった様に、ちゃんと仕事がしてくれる人に来て欲しい。初めから信頼関係がおける人に来て欲しいということが前提。何故かという、ご自身が畑に行けない、場合によっては農業を過去にした事がない様なご家族の方が田や畑を管理しなければならぬということなので、初めからグレードの高い人に来て貰った方がいいのかなということも思っているんです。勿論ホームページでも「ひっしのぱっちで紡ぐ農づくり」という制度があって、今、川俣の農家さんの所に学生さんを行って貰っていますけども、ご自身が農家出身の方であると、それだけでもやはり、農家の方は安心感ある。このアンケートも問3のところ、いきなりタダでもいいですかと聞き方をしているのは、そういう気持の高い人をまず選びたい、何割いてるのかなということもまず聞いた上で、その結果に基づいて、あと何が出来るのかなという所を踏込んでいきたいなということです。農家側のアンケート(問8)のところでも農作業を知っている人が、一番多いと思うんですよ普通に。その次には、ちゃんと指示通りにしてくれる人がええなで、同じ年令よりは若手の人来たらとりあえず指示しやすいし、いいかなという風になっていくんでしょうけど、経営実態によったら確かに誰でもいいから、お金さえ対価でお支払いして、その代わり何でもいいからして貰ったらいいと受入れる人はそれでもいいんです。けども、そうでない人の方が圧倒的に多いのかなという実態を見たらやはり、最初のアンケートの所でふりをかけるという言い方はおかしいですが、そういう方々の実態はどうかなというのをまず知った方がいいのかなという思いで項目を作らせてもらいました。

(委員) 行政さん、ちょっとだけズレた話なるがシルバー人材センターの話で、一生懸命やられる人が沢山おられる。それなら、せっかくニーズな人だから本当に受けたらという方が、そのシルバー人材センターと本当に連携出来てその中でランク付けでも出来るのかは別として、やる方向がベターな、市全体でつくれたら、もっといいシステムになると思う。農協が市と一緒に含めて一つでやれるキッカケになればいいかなと思う。

(委員) 委員の方々からご意見頂きまして一つの方向としてまず、アンケートを農家・市民の方々に実施をさせて頂くことについては、委員の方々のご了解を頂けるかなと思っています。よろしいでしょうか。続いて進行予定につきましては、今回頂いたご意見を踏まえた上で、8月から動き出すことになるが、変更を加えて頂いた変更文をもう一度委員の方々にご覧いただいて最終的なアンケート原案として確定をしていくのが筋かなと思っておりますが、その辺の予定としては今でている変更点としては、農家向け問12の文言の変更。市民向け問9作業についての文言の変更あたりが私の把握している段階ですが。

【事務局】 機械利用の可能性はあるかどうかですかね。

(委員) それ位でよろしいでしょうか、他あれば。

(委員) 農家向け問5の「農作業を日頃何人で作業していますか」で人数を記入し、その次に年代をチェックする様になっていますが、例えば60代が2人いる場合、60代にチェックを入れると上の人数が反映されて、

2人ですと判断されることになるのですか。

(委員) 一応そういうことなんですけどね、最終的に何才台がいてるのかという、ことになりますね。内訳までは纏めることは出来ない形式になっているが、これはこれでいいのですね、例えば、年代別に何人と内訳がいくらかどうか。

(委員) 年代の横に人数を記入してもらった方がいいのではないかな。

【事務局】 より正確な形にしたいと思います。市民向けアンケートの間8. 栽培作物のキュウイはキウイが正しいので訂正します。東大阪で栽培されている作物はもっと多いですよ。

文言を修正したものを今週中に委員宛郵送して、ご返事頂くのが週明けを予定して、スケジュールは1週間程ズレますが、改めて日程の変更した分も含めて、あと意見を頂戴したら、基本的にはその返しはしないということでもいいでしょうかね。

(委員) それでは事務局に進行を委ねます。

【事務局】 「畑ってすごい」という冊子について、幼児向けの絵本ですけども農業振興啓発協議会の中で、昨年話を進めさせて頂いたものが、やっと完成したということになります。思いはファームマイレージを本市で進めています、野菜を食べれば農地が守れるという趣旨・概念をこの絵本で知って頂こうということになっています。画面をチラチラめくっていると、農家、農地が登場します。そこへ持って行きたいなというので、絵の中にも登場するという仕組みになっています。この絵を描いて頂いたのは、この本の最後にも紹介しているが、梅花女子大学の現在学生で、将来的には絵本作家を希望しておられる方のご協力をいただいたということでございます。著作権については啓発協議会がもっており、現在600冊程ございます。幼児向けですので私立・公立を問わず保育所・保育園・小学校の方にお渡しするということや、関係JAや公共施設関係、大阪府の関係等々にお渡しをしたいと思っています。そうすると冊数が足りないので、配布は1冊程度になりますが、是非ご活用をお願いしたいと思います。

【事務局】 ・次回部会は10～11月以降で開催の予定

・その他

【閉会】 15 : 30